



つるみ ただし  
鶴身 正さん  
(昭和10年生まれ・80歳)



かわだ なおき  
川田直諒さん  
(香川県立津田高等学校1年)

コーディネーターより

瀬戸内海国立公園に位置する津田の松原は、約4000本と言われる黒松が見事な景勝地。400年以上前から防風林や燃料用として利活用しながら、大切に松林を守り伝えてきました。鶴身正さんは、この松原の保全活動などに取り組む「津田の松原を良くする会」の事務局長。さぬき市津田町生まれの仲間と一緒に、少しでも良い形で津田の松原を後世に残していけるようにと活動しています。そんな鶴身さんを一言で表すと「努力家」と川田さん。「津田の松原に恩返しをしたい」と熱心に活動している鶴身さんの話を聞いて思ったそうです。津田の松原無料案内所で昔の津田町の写真を見たり、松原を散策しながらお話を伺いました。

ど地面から浮いている松のことです。私が小さいときは、地面から1メートルぐらいう上がとつたけど、伐採してしまいました。今も根上り松は残っています。が、砂が敷き詰められて昔ほど浮いてはいないです。それから樹齢が600年と言われる松が何本かあります。それに名称をつけた松を、津田の松原では「七福神の松」と呼んでいるんやけど、その樹皮、松の皮やな、その厚さが十数センチもある。亀の甲羅とか竜のうろこに見えると言われる松で、そんな松は他ではなかなか見られんでしょう。こんな松が何本もありますんで、一見の価値はあると思います。

——今と昔の松原の違いの話が少し出ましたが、鶴身さんが子供のときの松原の話を見せてください。

私たちが子供の頃は、よく松原の松葉を集められました。松葉は燃やして、風呂を焚いたり、ご飯をつくらしたりするのに使ったんです。今でいう電気やガスの替わりになっていたんやね。松葉を集めるのは常に子供達の仕事。根上り松の根の下にもぐって、遊びながら集めました。今も定期的に掃除をしているので綺麗に見える松原やけど、その頃はもっと綺麗だったなあ。松葉一つ落ちていなかった。あと、津田の松原沿いには昔から海岸と海水浴場があるんやけど、そこでは地びき網で魚をしていました。その魚を手伝うとお駄賃として、魚を何匹かもらえてね。子供達で網を引いて。それが楽しみでよう手伝ってた

1 鶴身さんの案内で、津田の松原を歩く。松原を知り尽くした鶴身さんならではの細やかな解説に小さな発見がいっぱい 2 大きく割れた樹皮が風格たっぶりの松。間近で触れると改めてその存在感に圧倒される 3 根上り松の根元で自生している松の子供。こうして命のサイクルがつながって今の松原がある 4 聞き書き当日は、鶴身さんだけでなく、「津田の松原を良くする会」のメンバーの皆さんも同席して、様々な話を聞かせてくれた 5 昭和63年の津田の松原。臨時列車が出るほど人があふれ、海水浴場としても賑わっていた



この松原で生まれ育った。  
だから恩返しをしたい。

津田の松原の見守り人 鶴身正さん(さぬき市)

鶴身さんから受け取った言葉

——いつもは津田の松原で、どんな活動をしていますか？

特別なことはしてらんです。松原を散策して松の状態を観察し、松食い虫がついていないか、元気がない松がないかを見ながら、津田の松原を管理しているさぬき市の商工観光課と一緒に、松原をきれいにしてお手伝いをしています。あとは、ハマヒルガオなどの海浜植物の観察や、松原の中にある案内所で観光客の方に松原の説明をしたり、松原の清掃活動などもしています。この松原で生まれ育ってきて、この地にはとてもお世話になっている、だから何か恩返しをしたいと思っています。

——津田の松原の名所を教えてください。

津田の松原の一番の特徴は「根上り松」があること。それは根が50〜60センチほど

小さな松が根上り松になるのは  
本当に立派なこと。



——松の樹齢はどうかやればわかるのですか？

松の枝の節を数えたらある程度はわかる。この松なら、節が10あるから樹齢10歳。あ、その根上り松の根の間に自生した松の赤ちゃんがおるね。

——1年目の松でも、まだ雑草と見分けがつかないくらい小さいのですか？

ある程度大きくなるまで、松が自生していることに気づきにくいんです。生長する前に掃除してしまうことが多いので、こういった掃除しにくい根上り松の根の間に松が生えてきます。ここからも根の間に生えた松が何本か見えるけど、あれはすべて自生した松やね。この小さな松が、七福神松や他の根上り松のようになるのは本当に立派なこと。この松の赤ちゃんも大きく育ってほしいですね。

参加者の感想



私は新聞部に所属しており、校内でのインタビューは何度も経験していましたが、学外まで足を運んでインタビューをするということは初めてだったので、いい経験になりました。また、地元には自分が思っているよりもすごい自然が残っているということを知ることができ、地域への関心がより一層高まり、自分も小さなことからでも、「津田の松原を良くする会」の皆さんのように、地域の自然を守るために何かをしなくてはならないと思いました。

